

「子どもの“学びの足跡”から個別最適な学びへ」

ICT (Studylog) を活用し、子どもの学びの課程や学び方の特徴を見つめ直し、個別最適な学びの実現に生かす。

「Studylog」とは？

Studylog = 学びの記録 (デジタル化)



Studylog (スタディ・ログ) という言葉は直訳すれば「**学びの記録**」ですが、最近では特に**デジタル化**された学びの記録を指す言葉として使われることが多くなっています。

どのような情報を記録する？

学習評価

学習履歴

学習到達度

デジタル化された学びの記録を蓄積・活用する際に、スタディ・ログという言葉が使われています。スタディ・ログには、**学習履歴**や**学習評価**、**学習到達度**などの情報が含まれます。

なぜデータ活用が必要なの？

学校の中で、こんな課題はありませんか？

学習指導では・・・

子供の前学年の学習状況をさかのぼることが難しく、いつ学習につまずいたのかハッキリわからない



生活指導では・・・

不安を抱える子供の学習や生活の様子を関係者間ですばやく共有できない



保護者への情報提供では・・・

保護者懇談会での説明にもっと説得力をもたせたい



エビデンスに基づいた的確な指導・支援

学習指導の充実



生徒指導の充実



保護者への情報提供



どのように取り入れるの？

さまざまな場面でのデータ活用の例

授業 ICTを活用した子供たちの学習活動を見取る



子供の活動をその場で見取り、**授業に反映**することができる。

放課後 授業を振り返り 子供たちの理解度をチェックする



学級内の子供の**データが**一覧化され、効率的に授業の振り返りができる。

学年の担任同士で指導を相談する時の参考とする



具体的な**データを見ながら**相談するので、スムーズに状況共有ができる。

研修 児童生徒や学級の状況をデータで確認する

データを基に**客観的に**取組を振り返ることができる。また、教員間で**課題意識を共有**できる。

具体的な実践事例はこちら

教育の質の向上に向けた
データ連携・活用の取組
《エビデンスに基づいた学校教育の改善に向けた実証事業》



個別最適な学び
との
関連

ICTの活用により、学習履歴 (スタディ・ログ) 等を蓄積・分析・利活用することが重要です。
このことは、教師の負担を軽減や、児童生徒が見通しを立てたり、新たな学習方法を見出したりする等の効果が期待できます。